2018. 2. 23発行

食環協ニュース131

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会　〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL 03-5439-5121　FAX 03-5476-2883　HP https://www.kankyobika.or.jp

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第18回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

1月26日（金）、「浅草ビューホテル」（東京都台東区）3階「祥雲の間」において「第18回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。18回を数える今年も、表彰校の児童および教職員を始め、行政や飲料団体関係者、報道機関から多数の参加をいただきました。数十年ぶりという記録的な寒さが続き、当日も東京都心は強い寒気に覆われましたが、会場は功績を称える盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、37都道府県から推薦を受けた小・中学校37校の中から、審査会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校27校の表彰校については、P9以降に掲載されています。

このニュースは再生紙を使用しています。

表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の会長東隆（大塚製薬株式会社執行役員）があいさつし、表彰事業の歴史や意義について述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校４校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童が住民と連携して、地域特性を生かした環境美化活動に取り組む様子が動画やスライドを通して披露されると、児童のひたむきな姿に感動し、涙を浮かべながら静かに聞き入る参加者の姿も見られました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準に触れながら講評し、「科学的根拠を踏まえた環境美化活動の実践により、地域と協働・コラボレーションをして学び合いの関係性を構築し、地域全体が屋根のない学校になり、活動への共感を広く発信していくことが重要」であることを強調しました。

また、来賓として出席された文部科学省の吉田聡茂氏、農林水産省の添野覚氏、環境省の小笠原靖氏からは、「持続可能な社会環境づくりに向けて、地域と連携を深めながら美化活動に継続して取り組まれることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーや浅草界隈の夜景が一望できる25階「大輪の間」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。乾杯のあいさつでは、東隆会長が受賞校の活動をあらためて賞賛するとともに未来を担う子どもたちにエールを送りました。懇談会の途中、児童たちが登壇し、各校の環境美化活動を紹介。踊りながらパフォーマンスをしたり、ご当地カルタや地域の伝統芸能を披露したりと、小学生らしいパワフルな寸劇や工夫を凝らしたスピーチに会場は大いに盛り上がりました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

地域社会との連携が自己を確立し自分自身の骨格を作る大切なステップ

審査委員長　東京学芸大学名誉教授　小澤 紀美子氏

今回私どもは審査をするに当たり、４つの評価基準を設定いたしました。１つ目は、独創性があり、継続的・持続的に進めていることです。２つ目は、活動内容が客観的根拠を持ち、科学的・実践的な学びと結びついていることです。そして、３つ目は、地域社会と連携していること。この視点はとても大事で、小・中学生が自分と社会、地域とのつながりの中で自分を見出し、かつ世界へ目を向ける段階として自己を確立していくときに、地域と連携することで自分自身の骨格を作る大切なステップだと考えています。最後は、活動の広がりです。本日受賞された４校の取り組みは、創意工夫をしながら学びが教室を超えていました。この活動が、全国に発信され、日本全体に広がることを祈念いたします。

学校全体であらゆる教科を利活用したカリキュラムマネジメントが重要

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課　専門職　吉田 聡茂様

本日、文部科学大臣賞を受賞された広島県福山市立春日小学校は、特に地域との連携を大事にして、児童自ら主体的に取り組んでおられる様子を、さきほどの紹介映像で拝見し感動いたしました。春日小学校のＨＰにおいても、学校カリキュラムの年間指導計画を公開しており、総合的な学習の時間を軸に、ごみデータの分析を算数の折れ線グラフの授業と結びつけたり、国語の時間を利用して発表の仕方を学習したりするなど、学校全体であらゆる教科を利活用して取り組まれています。文部科学省では、こうしたカリキュラムマネジメントが重要だと考えています。みなさんには、引き続き環境問題への理解を深め、環境保全に寄与する人間に成長されることを願っています。

自然環境と農林水産業の関わりに着目した美化活動が今後の人生に生かされる

農林水産省 食料産業局 食品製造課　課長補佐(食品第３班担当)　添野　覚様

農林水産大臣賞を受賞された福井県若狭町立三方小学校は、ラムサール条約湿地に登録されている三方五湖を校区に抱える環境を活かして、湖につながる川でさまざまな環境美化活動に取り組んでいます。水質を維持するために、地域住民とともに湖岸清掃活動を実施しながら、無農薬・有機栽培のゆりかご米づくりを行っています。また、田んぼでコイやフナを卵から生育し、その稚魚を湖へ放流する活動を通じて、命の源である三方五湖を知り、湖と共生する大切さを学んでいます。こうした取り組みは、地域資源である自然環境と農林水産業の関わりに注目して行われる素晴らしい活動で、みなさんの今後の人生や、将来の日本の経済社会の発展に生かされるものと思っています。

持続可能な社会環境を考えることができる人を１人でも増やすことが何よりも重要

環境省　環境再生・資源循環局　総務課　リサイクル推進室　室長　小笠原　靖様

世界に目を向けてみますと、人口は増え続けており、比例して資源消費も増加しています。このペースで資源を使い続け無秩序に捨てていけば、いつか資源は枯渇し、環境も悪化します。また、今話題となっている海のプラスチックごみ問題も含め、資源の有効利用が大きな課題になっており、持続可能な社会環境をつくっていかなくてはなりません。環境大臣賞を受賞された岩手県久慈市立小袖小学校は、地域のごみ回収を始めとしたさまざまな美化活動を行っていますが、地域住民と協力しているからこそ長年継続していることに感銘を受けました。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界からたくさんの方が来日されます。日本が美しい国だと感じてもらえるように、みなさんの美化活動が全国に広がることを願っています。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

児童運営のリサイクル活動でエコの輪が広がり自己肯定感向上

文部科学大臣賞　広島県　福山市立春日（かすが）小学校

市民の憩いの場所として親しまれている「春日池公園」が校区にある同校では、園内の清掃美化活動を始め、一斉下校時のポイ捨てごみ回収などに励んでいる。どのような散乱ごみが多いのかを分析する過程で、自分たちの地域環境の向上に注力するようになった児童は、「ふくやまエコトライアスロン」を考案。週に1回リサイクルの日と定め、アルミ缶やスチール缶などを回収する活動で、市が取り組む環境配慮行動とリンクして進め、児童が宣伝や広告を楽しみながら行っているのが特徴だ。この仕組みをもっと知ってもらい、地域にエコの輪を広げたいという意欲が高まった児童は、地域文化祭で啓発活動を実施。ポスターやプラカードを作成し、リサイクルやごみの分別の大切さをアピールしている。さらに、近隣エリアの小学校や中学校にも発信し、児童会と生徒会の交流を通して取り組みを深めている。支援に力を尽くす住民や企業、行政に支えられながら環境学習を行い、社会に貢献する力を養っている児童は、大きな達成感とともに自己肯定感が向上している。

広島県福山市立春日小学校のみなさん

「この受賞で、児童は自分たちの活動に自信を持ち、さらに地域をよくしたいと感じています。住民や保護者、福山市など協力して下さったみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです」

広島県 環境県民局 環境政策課 主査 沖本 真朗氏

「福山市は環境教育に熱心ですが、一方で十分な授業時間を取れないといった現場の声も耳にします。こうした春日小学校の熱心な取り組みを紹介しながら、より環境活動を広げていければと思います」

広島地方連絡会議
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
西日本自販機支社 課長代理 伊藤 容功（よしかつ）氏（下部写真左）

「担当して2年目になりますが、学校をはじめ地域住民のみなさんが、美化活動を通じて環境意識の高い子どもたちを育てていることがわかるとてもレベルの高い県だとあらためて実感しています」

湖岸清掃と無農薬の米作りで環境、生き物、地域との共生を学ぶ

農林水産大臣賞　福井県 若狭町立三方（みかた）小学校

ラムサール条約湿地に登録されている「三方五湖」のそばに位置する同校では、住民とともに湖岸清掃活動に取り組んでいる。200人以上が参加して実施する一大行事で、ペットボトルなどのポイ捨てごみの回収に努めながら、地域全体で湖を守ろうという意識を高めている。その湖につながる川の上流で8年前から行っているのが、有機栽培・無農薬の米づくり。専門家の指導のもと、田植え、稲刈りなど年間を通して実施しながら田んぼと湖のつながりを深く学んでいる。その田んぼでコイやフナを卵から生育し、その稚魚を湖に通じる川へ放流する活動にも取り組む。湖や田んぼが命の源となり、生き物のゆりかごになっていることから、児童は育てた米を「ゆりかご米」と命名、地域ブランド米として行政の協力を得て販売にも携わる。そうした活動が奏功し、絶滅危惧種の水草が田んぼで確認されるなど、生物の生育環境が向上。美化活動や米作りを通して、湖と自分の生活がつながりあって共生していることを、児童はシンポジウムなどで広く発信、地域の活性化を支えている。

福井県若狭町立三方小学校のみなさん

「この取り組みを継続していくことの大切さを痛感しています。環境美化教育を通して、子どもたちの豊かな心を育てると同時に、ふるさとを大切にする活動をしてまいります」

福井県若狭町 教育委員会 事務局 主査 加藤 章寿氏

「私の母校でもある三方小学校が受賞し本当にうれしいです。昔から力を入れてきた美化活動ですが、この受賞を機に、ゆりかご米とともにもっと多くの人に知ってもらえればと思います」

北陸地方連絡会議
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
中部支社北陸支店 支店長 石村 諭氏（下部写真左）

「美しい湖、三方五湖を校区に抱える学校が受賞され、地域としても喜ばしい限りです。身近なこと、小さいことを含めて日ごろから行っている取り組みをもっと広げていきたいと強く思います」

児童が主役の美化活動が住民の心を動かし地域活性化に貢献

環境大臣賞　岩手県 久慈市立小袖（こそで）小学校

三陸復興国立公園にあり、北限の海女で知られる景勝地、「小袖海岸」を校区に持つ同校では、希少な自然環境を守るために25年以上にわたり地域の清掃活動に取り組んでいる。登校時に通学路沿いにあるペットボトルなどのポイ捨てごみを回収する「クリーンの日」、下校時、子ども会ごとに地域に散乱している空き缶などのごみを回収する「全校クリーン活動」、漂着ごみを回収する「浜クリーン活動」の３本柱で実施。全校児童数28名の小規模校ならではの強みを生かして、住民の協力のもと、異学年交流を深めながら取り組む中、突如襲ったのが、2011年の東日本大震災と2016年の台風10号。町は立て続けに甚大な被害を受けたが、その様子を目の当たりにした児童が立ち上がった。自分たちが住む地域住民の心を笑顔でいっぱいにしようと、花苗を育てて一帯を花で彩りごみを減らすプロジェクトを開始。美化教育と復興教育が連動し始めたのを機に、児童は地域資源にも着目、絵葉書を作成し観光客に町の魅力をPRしながら、ふるさとの自然や文化を次代に引き継ぐ意思を育んでいる。

岩手県久慈市立小袖小学校のみなさん

「26年にわたる環境美化教育の歴史が評価されたこと、地域や保護者を巻き込んでステージを広げて環境美化教育を実践してきたことが評価されたのを大変うれしく思います」

岩手県 教育委員会事務局 県北教育事務所 指導主事 小森 篤（あつし）氏（下部写真右）
岩手県 環境生活部 資源循環推進課 主任主査 菊池 剛氏

「県内から受賞校が出たことを誇らしく思うと同時に、今後は、小袖小学校の取り組みを紹介しながら、活動を持続させる意識付けや、ひと手間加えることで価値の高い活動につながることを広げていきたいです」

岩手地方連絡会議　みちのくコカ・コーラボトリング株式会社 PRグループ 係長 浅井 勇貴氏（下部写真左）

「今回受賞した小袖小の長年にわたる美化活動が県内各地の学校に広がり、この表彰事業が続くように支えていければと思います。また、環境活動がニュースで取り上げられるようにサポートしてまいります」

地域とともに励むエコ・ピカプロジェクトが充実感・一体感醸す

協会会長賞　群馬県 高崎市立京ケ島（きょうがしま）小学校

学校版ISOの参加を機に、全校を挙げてごみの削減や省エネ、リサイクルなどに取り組む。低学年にも理解できて自然に続けられるようにと「エコ・ピカプロジェクト」と命名。その取り組みのひとつが、毎月1日を環境デーに設定し、登校時にアルミ缶や牛乳パックなどを回収・分別する活動だ。環境美化委員を中心に、校内放送やチラシを作成し、呼びかけを徹底した結果、月平均500余名の児童や地域住民が協力している。家庭や道端に咲いている花を学校に持ち寄り、校内を花でいっぱいにする花いちりん運動も盛んで、栽培委員が校庭の花壇に花を植えるなど、季節感が感じられる豊かな環境づくりに励む。また、節電や節水にも意欲的で、寸劇を披露して楽しみながら省エネに取り組んでいるのが特徴だ。通学班ごとに行われる地域のクリーン活動では、毎年800人前後が参加、保護者や住民の協力を得てポイ捨てごみを回収している。主体的に美化活動に励む中で、児童は教科・領域等の学習を通じて環境問題の解決にかかわろうとする態度を培い、充実感を養っている。

群馬県高崎市立京ケ島小学校のみなさん

「みんなで長く、まじめに、コツコツと積み重ねてきた環境美化に関する取り組みが、最優秀賞という形で評価を頂いたことをただただうれしく、そして感謝を申し上げます」

群馬県 環境森林部 環境政策課 主事 古屋 裕康氏

「京ケ島小学校の環境美化教育は全般的に取り組まれていて素晴らしい活動です。県内においても、こうした優れた環境教育活動をしている小中学校をピックアップしてまいりたいと思います」

群馬地方連絡会議　サッポロビール株式会社
群馬工場 副工場長兼総務部長 安達 一郎氏（下部写真左）

「群馬県では、環境活動を始めさまざまな政策を進めています。一つひとつ積み重ねてきた結果が今回の受賞につながったということで、この場に同席できたことを大変うれしく思います」

第18回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校（4校）

■文部科学大臣賞　広島県　福山市立春日小学校
■農林水産大臣賞　福井県　若狭町立三方小学校
■環境大臣賞　岩手県　久慈市立小袖小学校
■協会会長賞　群馬県　高崎市立京ケ島小学校

優秀校（6校）

新潟県　長岡市立川崎小学校
徳島県　鳴門市第一中学校
宮崎県　都農町立都農小学校
石川県　七尾市立田鶴浜小学校
長崎県　小値賀町立小値賀小学校
鹿児島県　龍郷町立龍北中学校

優良校（27校）

北海道　帯広聾学校
宮城県　石巻市立住吉中学校
山形県　酒田市立亀ケ崎小学校
茨城県　常陸太田市立里美小・中学校
東京都　大田区立馬込東中学校
富山県　高岡市立五位中学校
長野県　諏訪市立上諏訪中学校
愛知県　新城市立鳳来中学校
京都府　南丹市立八木中学校
兵庫県　神戸市立長坂中学校
岡山県　新見市立新砥小学校
高知県　宿毛市立宿毛中学校
佐賀県　佐賀市立嘉瀬小学校
大分県　大分市立こうざき小学校
青森県　五所川原市立五所川原第三中学校
秋田県　秋田県立能代支援学校
福島県　南会津町立伊南小学校
栃木県　高根沢町立中央小学校
神奈川県　南足柄市立南足柄中学校
山梨県　山中湖村立東小学校
静岡県　三島市立山田小学校
三重県　四日市市立楠中学校
大阪府　泉佐野市立第一小学校
奈良県　葛城市立當麻小学校
愛媛県　鬼北町立広見中学校
福岡県　篠栗町立篠栗北中学校
熊本県　熊本市立河内中学校

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第１８回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校６校のうち２校を抜粋紹介

長崎県　小値賀町立小値賀（おぢか）小学校

小中高一貫教育の一環として、地域の環境の実態を知り、環境保全の意識を高めることを目指して、2008年より、「小中高合同町内海浜清掃」を開始。児童生徒が縦割り班を組んで、海岸に散乱している空き缶などのごみ回収を行う。「島の子は島で育てる」という意識が根付いており、大人もいっしょに活動しているのが最大の特徴。漂着ごみの調査に基づいたごみ防止カレンダー作成や、海の環境調査、特産テングサを使用したところてん作りなど、住民の協力を得ながら多彩な取り組みを通じ、小値賀の自然を守ろうという意思を育んでいる。

「海浜清掃やごみ防止カレンダー作成などの多様な環境活動を継続して実施しているのは、地域や関係団体、保護者を巻き込んだ取り組みに発展しているからです。今後も、美しい島の風景が永久に続くように活動してまいります」

［授与式の出席者］
- 長崎県 小値賀町立小値賀小学校のみなさん
- 長崎県 環境部 廃棄物対策課 循環型社会推進班 主事　濱田 裕平氏
- 長崎地連 古川 充彦氏（アサヒビール株式会社）

宮崎県　都農町立都農（つの）小学校

年１回、「都農町幼・小・中・高等学校クリーン大作戦」と名付けた地域の清掃活動を実施しながら、児童や生徒たちが住民と交流を深めている。当初は各校で行っていたが、協力する楽しさや喜びを体感して、何事にも進んで行動する態度を養うためにと合同で活動し始めた。同時に、地域住民の指導のもと、駅から延びる町の主要な歩道に、育ててきた花の苗を植えている。ポイ捨ての抑止につながるだけではなく、環境意識の高まりとともに、花の世話をする児童が増えてきた。また６年生を中心にした毎朝のボランティアの清掃活動も活発だ。

「年間を通じた生徒や地域住民の方々の長年にわたる活動が評価されて、今回表彰して頂いたことをたいへんうれしく思います。今後も、最優秀校を目指して、地域全体で交流を深めながら、環境美化活動を続けていきたいと思います」

［授与式の出席者］
- 宮崎県 都農町立都農小学校のみなさん
- 宮崎県 環境森林部 循環社会推進課　石野田 考啓氏
- 都農町教育総務課 課長　吉川 高広氏
- 都農町社会教育課 課長　黒木 和秀氏
- 宮崎地連　柿原 章大氏（宮崎県農協果汁株式会社）

【優良校】受賞校２７校のうち４校を抜粋紹介

北海道　帯広聾（おびひろろう）学校

平成10年頃から学校周辺のごみ拾いを実施。この活動を機に、住民の間で地域の学校という認識が広まり、平成27年からは町内会の要望で、町内運動会が開催されるあけぼの公園で清掃活動を開始した。空き缶やペットボトル回収・分別、花壇やグラウンドの整備など、学年に応じた取り組みを行っている。身近な環境保全意識や住民との交流が深まった。

「皆さんが楽しめる公園にしようと継続して美化活動を行っているすばらしい取り組みです。このように、地域の課題を見つけ、企業や団体、地域とともに解決していくことは、我々の会社の方針でもあります。今後も、このような活動を継続的に応援してまいります」

[授与式の出席者]
- 北海道 帯広聾学校のみなさん
- 北海道地連 佐藤 一輝氏（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）
- 北海道地連 竹内 恒之氏（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）
- 北海道地連 東　裕一氏（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）

山梨県　山中湖村立東（ひがし）小学校

多くの観光客が訪れる山中湖の近くにある同校では、30年以上前から地域住民とともに湖畔に散乱している空き缶やペットボトルなどを回収する清掃活動に励んでいる。この取り組みをきっかけに、集団登校時に清掃を行い、資源ごみの回収活動を実施するなど、日常生活においても環境に配慮する児童が増えた。住民の美化活動への関心も向上している。

「長年の取り組みが受賞という形でスポットを浴びることができてうれしいです。同時に、ごみをポイ捨てしないという大人への喚起もあらためて重要だとの認識を持ちました。今後も、最優秀賞を目指して活動を続けていきます」

[授与式の出席者]
- 山梨県 山中湖村立東小学校のみなさん
- 山梨県 森林環境部 石井 映子氏
- 山梨地連 澤口 好成氏（株式会社伊藤園）

兵庫県　神戸市立長坂（ながさか）中学校

校区を流れる伊川の清掃活動に地域住民や大学生とともに取り組んでいる。生徒が美化活動を開始してから、川沿いの散乱ごみが徐々に減少するなど、住民の環境意識に変化がみられるようになった。敷地面積が広く、身近なところで自然に触れることができる同校。その環境を生かして、落ち葉でたい肥を作り校内に活用するなど多様な美化活動に励んでいる。

「落ち葉をたい肥にするエコ活動をはじめ、さまざまな環境美化活動が認められてたいへんうれしいです。今後は、受賞で頂いた賞金で、枝の粉砕機などを購入し、さらに取り組みを充実させていきたいと思います」

[授与式の出席者]
- 兵庫県 神戸市立長坂中学校のみなさん
- 兵庫県 環境農政部 山本 由佳氏
- 神戸市 教育委員会 事務局 奥村　康氏
- 兵庫地連 山名 裕之氏（ダイドードリンコ株式会社）
- 兵庫地連 登倉 秀裕氏（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）
- 兵庫地連 古屋　崇氏（アサヒ飲料株式会社）

高知県　宿毛市立宿毛（すくも）中学校

生徒会の呼びかけで始まった地域の清掃活動「キビナゴ隊」。学校周辺の道路や公園、河原などで、住民にあいさつをしながら散乱ごみを回収する。さらに、生徒の発案で朝の校内清掃「お掃除洗隊直七レンジャー」も開始。毎週木曜、校舎の隅々まで掃除する作業で、地域名産をもじった愛称で住民からも親しまれ、実際に地域のごみが激減したと好評である。

「受賞につながった取り組みは、先輩たちが自主的に始めた活動ですが今回、その努力が実ってとてもうれしいです。RKC高知放送のTV局や読売新聞など取材にも来てもらったので、さらに取り組みを広げていきたいです」

[授与式の出席者]
- 高知県 宿毛市立宿毛中学校のみなさん
- 宿毛市 教育委員会 教育長 出口 君男氏
- 高知地連 中谷 純一氏（大塚製薬株式会社）
- 高知地連 宮下 俊哉氏（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）
- 高知地連 大石 恭三氏（キリンビール株式会社）

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。

「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります!

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習Webサイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。

のんだあとは リサイクル

まち美化ってなあに?

イラストや画像いりで
楽しくわかりやすい!

ポイすてストップってなあに?

「リサイクルしたら何に変身するの?」

アルミかん
スチールかん
ガラスびん
ペットボトル
紙パック

映像資料も
あります!!

ホームページは
こちらから

まち美化キッズ　検索

https://www.kankyobika.or.jp/kids